## 歌曲「旅人の宿」

作詞 福永武彦 作曲 川井明男\*

## まえがき

この曲は福永武彦氏の詩「旅人の宿」をソプラノ用歌曲として作曲したものである。作曲にあたっては、静かで美しい自然と孤独な旅人という情景の描写や、ややかげりのある叙情的な情感の表出をめざした。

曲は4分の4拍子でへ長調。途中で2回変ニ長調に転調し、その部分は4分の3拍子となっている。 曲は197小節で演奏時間は約9分弱。

楽譜の作製にはパソコンは「ATARI」、ソフトは「NOTATOR SL」を使用した。

## 「旅人の宿」

山々に圍まれた小さな町に 「御宿」のしるしばかりを僅かに見せ 汗ばんで往還を行く人もないのに ぽつねんと待ち佗びる宿がひとつ

百合の咲く谷間の流れ ひびきよせる流離のうたに手枕して かびくさい旅人の宿のひるさがり あつい疊に眠る人がある

よるさとを離れて道も遠く 幾日の旅のつかれを放念して ひとときの貪りがたのしいのか 男の唇はただこの夢に微笑する あこがれる 山あびの町はいつしか翳り さだめもない霧のかかる 秋のちかさ ほのさびた宵の灯ともし時 旅人の宿は悲しげに暮れて行く

つめたさは昔に歸る思ひ出か うたたねの旅の男のめざめる頃 百合の花はそぼ濡れて色もとけ せせらぎのゆるい調べにくずほれる うなだれる

明日の日 一度も見たこともない形をして 雲は浮かび 太陽は真夏を放射しても 昨日疊の上でまどろんだ男は既に去り 旅人の宿は森閑として蟬の罄

> (出典:「福永武彦詩集」 麦出版社,1970年)

<sup>\*〒380</sup> 長野市三輪8-49-7 長野県短期大学









82 川井明男









86 川井明男









